

研究所だより

第406号
2019年10月 7日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“しずかな しずかな 里の秋 おせどに木の実の 落ちる夜は
あぁ かあさんと ただ二人 栗の実にてます いろりばた”

『里の秋』 童謡・抒情歌 1945年



～収穫の秋・紅葉の秋～

お彼岸が過ぎ、朝夕ずいぶんと涼くなりました。8日は“寒露”、「野草に冷たい露が宿る」という意味です。この頃は、秋も深まって山では紅葉も色づき始める頃と言われています。日中はまだ暑いと言っても、吹く風や周りの景色は着実に秋色に変わりつつあります。

＝授業の見方・教室の見方＝

(教育ジャーナル2019年9月号) から

ペア活動、グループ活動を充実させるには～ 2 ～

今回は、そうした条件を満たしたものにすることが可能な具体的な活動例を紹介します。

レクチャーされたことを説明する方法

レクチャーは「説明すること」などの意味を持ちますが、特に「口頭で詳しく説明する」というニュアンスで使われることも多いようです。ここで紹介する活動もそれに当たります。

図1に示したように、説明する役の友だちに自分の考えを説明し、他の人に自分に代わって説明してもらうという活動です。

自分の考えを伝える側は、何を伝えればいいのかを検討することで、自分の考えを整理し、より明確なものにすることが必要となります。また、その考えを確実に相手に伝えるためにはどのような順番でどのような言葉を使うとわかりやすいのかなど、伝え方についても検討することが必要となります。

一方、考え方を聞く側は、聞いた内容を他の人に説明できるようにしなければなりません。質問にも答えられなければなりませんから、単に「聞いたことをそのまま伝える」ことができるようになるだけでは不十分です。聞いた内容を理解し、自分なりに再整理し、疑問点や不明点については、質問してそれを解消し、何をどう伝えるかを考え、説明に当たります。

(圖 1)



図1 レクチャーされたことを説明する方法

こうした過程を通じて考えを整理し、まとめる、わかりやすく伝える、人の話を聞くといった経験を積み、それらのスキルが高まることが期待されます。

実は、こうしたレクチャーは、実際の仕事の場でよく行われます。その代表的な例として挙げられるのが、国会中継で大臣にその場でレクチャーする各省庁の人の姿でしょう。組織で仕事をしていると、ある内容について詳しく知る担当者が、説明に立つ人にレクチャーすることというのは珍しくありません。将来自分もそうした場面を経験することになるかもしれない。そんなことを意識したら、こうした活動に取り組む意欲が変わってくるかもしれません。

ジグソー法

ジグソー法は、アメリカの心理学者エリ奥特・アロンソンが提唱した学習者同士の協力や教え合いを促進し、それを通して学びを得るという学習方法です。

例えば、4人ずつのグループで、4つの内容について学習するとき、まず4人が分担して、それぞれ異なる内容について学びます。その後、自分のグループに戻って、グループのメンバーに自分が学習した内容をレクチャーする。その結果、全員が4つの内容について学ぶことになるというものです。(図2)各メンバーが責任を持って学ばざるを得ない状況が設定され、高い学習効果が期待できると考える方も多いようです。ただ、活動の過程が複雑で、準備等の負担も大きいからか、なかなか実践は広がらないようですが、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、再評価されている手法の1つといえそうです。



(図 2)



◆図書紹介！◆ ぜひご利用ください。

- ①学校教育・実践ライブラリ Vol.5
『 校内研修を変えよう 』（ぎょうせい）
- ②学校教育・実践ライブラリ Vol.6
『 先進事例にみるこれからの授業づくり 』
「見方・考え方」を踏まえた単元・指導案（ぎょうせい）



☆第1回学力向上検討委員会（委員長：宮地校長）

9月19日(木)に第1回学力向上検討委員会が開催されました。委員会の構成メンバーは、校長会を代表して下ノ江小：宮地校長、清水中：岡崎校長、研究主任を代表して清水小：松本先生、清水中：南先生と指導主事並びに研究所の岡田・勝間の6人で組織されています。今年度の委員長に宮地校長、副委員長に岡崎校長が選出されました。

協議では、全国学力・学習状況調査（標準学力調査含む）結果から

- (1) 市全体の傾向と分析（H19年度～R1年度経年比較；全国・県・西部地区との比較）
 - (2) 家庭学習の取組について
 - (3) 今後の学力向上に向けた取組について
- の3点を中心に話し合いました。

(1) 教科の領域別、評価の観点別、問題別に経年比較し、業者採点結果（自校採点の差）を元に傾向と分析を行いました。平均正答率で見ると、小学校は国語、算数とも全国平均を上回っています。中学校は国語、数学とも全国平均と同等で、記述問題の正答率が高いという結果が得られました。しかし、英語は課題を残しています。

「児童・生徒質問紙」の結果（肯定評価）からでは「①自分にはよいところがある、②将来の夢や目標を持っている、③地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の質問が高知県や西部地区より低い状況です。中学校では「生徒は、先生を肯定的に捉えている」が「自尊感情」は最近のデータの中では今年が低いという結果になりました。このデータをどう捉えるのか。落ち着いてきたことで目の前の課題に目が向き、一人ひとりに目を向けることが弱いのではないか」などの意見が出されました。

小学校では、「良いところはほめる」を基本に日々の肯定的な呼びかけをしている。「ほめられると周りの子どもも嬉しくなる」といった意見が出されました。

「課題と改善策」については、各校とも自校の状況を詳細に分析し、課題に対して具体的な改善策を打ち立てて取り組んでいます。実践例として

- ・言語活動（話す・書く）を元にした取組を全教科で取り組む
- ・帯タイムの活用
- ・要約や感想などは必ず条件（段落・字数等）を設定して取り組む
- ・学期毎に学校独自の漢字・計算の到達度テストを実施する
- ・系統的かつ段階的に活用力を育成するために活用力育成シートを作成し定期的に検証する（教職員の意識付け）
- ・ノート実践交流会や授業改善の振り返り等を元にノート指導スタンダードを作成、活用する



(2) 「効果のあった家庭学習の取り組み」については、各校児童生徒の実態に応じて具体的な取組が実践されています。実践例として

- ・家庭学習の手引き・自主学習の手引き・予習の手引きの活用（学習習慣の確立）
- ・新聞の活用（読み・書き写す・意味調べ・要約や感想を書く）
- ・全校で統一した漢字・計算ドリルの活用（系統的に学ぶ）
- ・家庭学習の提出状況の集計（目標設定：教師、児童の意識付け）
- ・自主学習（ノート）の取組（ノートの掲示、評価）

(3) 今後の学力向上に向けた取組について

小学校では、「〇字以内など文字制限や時間制限して書く練習」。「書くこと」が好きな子（嫌がない子）を育てる。中学校では、「教科部会で言語活動について再度確認をする」など、小中共に「言語活動（書くこと）」の質の向上を目指して取り組んでいく。

そして「一人ひとりの子どもの支援をどうするのか、授業改善に向けてどう取り組むのか」「教師の意識の格差をなくしていかなくてはならない」など今後の方向性について話し合いが行われました。

令和元年度高知県学力定着調査に向けて

実施期日：（小）12月17日（火）（中）12月10日（火）

内 容：事前に示されている「出題予定範囲」を再度確認してください。（公開日7／9）

＝第4回教研推進委員会＝

10月 3日（木）に第4回教研推進委員会を開催しましたので協議内容について報告します。

1. 協議

(1) 一日教研（8／7）の反省（出席：82/88人）

○各校からの反省・意見から

①期日

- ・登校日（6日）前後の日は避けてほしい。
- ・他の研修（悉皆）と重なった。（全員出席は厳しい）

※行事や閉庁の関係で日程調整が難しい。

各校や推進委員会の意見を元に「第1週水曜日に開催する」ことで今に至っている。

②内容

- ・午前（講演）：自己啓発につながり、活力をいただけた。
 - ・午後（部会）：2学期の授業で活用することができて良かった。
- ※多くの部会で計画的に取り組まれました。

③会場

公民館で良い。

④来年度に向けて

- ・部会数について（部会数の増減等）
- ※部会編成等については継続審議をしていく。

(2) 2020（令和2）年度第70次土佐清水市教育研究集会一日教研日程について

①期日：2020年 8月 5日（水） *講師の都合で期日の変更あり

②会場：中央公民館

③講師：調整中

各校から色々な分野、講師の推薦がありました。協議の結果、第1希望として「働き方改革」、第2希望として「情報教育関係」に絞り、講師と連絡・調整していくことになりました。

2. その他

(1) 半日教研：11月 6日（水）13：45～

各部会「公開授業」を中心に計画をお願いします。

※「旅費」は、「学校配当旅費」をお願いします。

(2) 第5回教研推進委員会

・期日：12月予定（調整中）

・会場：教育センター

・内容：ア 半日教研の振り返り

イ 2020（令和2）年度教研（組織、一日）の日程、部会構成、講師等について



＝提出物について

○各部会

- * 部会決算書提出 12月24日（火）
- * 事業実績報告書 1月27日（月）
- * 総括教研部会報告書 1月27日（月）
- * 研究集録原稿 1月27日（月）

○研究協力校

- * 研究集録原稿 1月27日（月）
- * 決算書・実績報告書 2月17日（月）